

# **JASSOの第5期中期目標期間の取組について**

## **(令和6年運営評議会資料)**

# 目 次

---

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| 第5期中期目標・中期計画（令和6年度～令和10年度）の概要 | 2 |
|-------------------------------|---|

（主な論点）

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1. 元奨学生とのつながりの維持・構築について | 3  |
| 2. 海外留学に係る機運の醸成について     | 6  |
| 3. 学生生活をめぐる諸課題について      | 12 |

# 第5期中期目標・中期計画（令和6年度～令和10年度）の概要

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

## 奨学金事業

### ◎ 給付奨学金

- 特に優れた学生等であって経済的理由により極めて修学が困難である者に対して支給し、多子世帯や理工農系の学生等の中間層への支援拡大により新たに対象になる者についても適切に支給
- 適切な適格認定を実施

### ◎ 貸与奨学金

- 適切な審査に基づき奨学金貸与事業を的確に実施（含授業料後払い制度）
- 適切な適格認定を実施
- 債権の適切な管理及び返還金の確実な回収
  - ・**新規返還者回収率を97.2%以上**  
 ＜新規の指標、令和5年度末実績：97.5%＞
  - ・**要返還債権額に占める3ヶ月以上延滞債権額の割合を3.83%以下**  
 ＜第4期の指標：3.26%以下、令和5年度末実績：2.81%＞
- 減額返還・返還期限猶予制度の適切な運用
  - ・**減額返還及び返還期限猶予の電子申請の割合を50%以上**  
 ＜新規の指標、令和5年度末実績：26.57%＞
- 多様な返還方法等の提供
  - ・**代理返還制度の利用企業数を4,600社以上**  
 ＜新規の指標、令和5年度末実績：1,798社＞
- 返還免除制度を適切に運用
- 機関保証制度について、適切な情報提供、代位弁済となる対象債権の的確な請求、制度の将来にわたる収支の健全性の検証を実施

### ◎ 奨学金事業に共通する事項の実施

- 高等教育機関への進学希望者等への正確でわかりやすい情報の提供に努めるとともに、奨学金相談センターの体制を整備
- 返還意識の涵養に向けた指導のため、学校との連携を強化
- 奨学金の効果の把握・検証に資する情報を得るための方策や、給付や返還が完了した元奨学生とのつながりを維持・構築するための方策について国と連携して検討し、具体的な取組を実施

## 留学生支援事業

### ◎ 外国人留学生に対する支援

- 日本留学に関する情報提供等を充実し、留学を巡る諸外国の動向やデータ等の収集・分析を実施
- 日本留学試験の適切な実施
  - ・日本留学試験を利用した**渡日前入学許可実施校数が令和5年度実績値を上回る**  
 ＜第4期の指標：182校、令和5年度末実績：196校＞
- 日本語教育センターにおける教育の実施
  - ・**高等教育機関に進学した者の割合を95.8%以上**  
 ＜新規の指標、令和5年度末実績：東京 99.5%、大阪 98.7%＞
- 優秀な外国人留学生に対する学資金の支給等
- 東京国際交流館、兵庫国際交流会館について収支改善を図りつつ、国際交流の拠点として活用
- 卒業・修了後の支援
  - ・国内での就職を希望する外国人留学生への就職支援
  - ・機構と日本留学経験者とのつながりを維持するためネットワークを整備

### ◎ 日本人留学生に対する支援

- 海外留学に関する情報提供等の充実
  - ・**海外大学卒業生とのネットワークを構築し、奨学金制度利用者の活躍事例を活用した情報を提供**
  - ・**イベント実施及び他機関が実施するイベントへの協力回数を年間30回以上**  
 ＜第4期の指標：中期目標期間中125回、令和5年度末実績：54回＞
- 学資金の支給
  - ・トビタテ！留学JAPAN 2027年までに5千人派遣
  - ・当該施策で得た経験を海外留学支援制度で活用

## 学生生活支援事業

### ◎ 学生生活、学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供

- 大学等の学生生活状況に関する調査、分析を実施
- 大学等における学生支援の調査及び先進的取組や喫緊の課題に関する情報提供

### ◎ 障害のある学生等に対する支援

- 修学支援に関する実態調査を通じた現状と諸課題の理解・啓発セミナー等を実施
- 大学等における支援体制の全体的な底上げを図る

### ◎ キャリア教育・就職支援

- 学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組が推進されるよう、セミナーを開催し、好事例を収集・発信

業務運営の効率化、財務内容、その他の業務運営に関する重要事項

- 一般管理費（公租公課及び土地借料を除く）、業務経費（奨学金事業業務、新規追加業務に係るものを除く）**共、令和5年度予算を基準に、**中期目標期間中5%以上削減**  
 ＜第4期の指標：一般管理費16%以上、業務経費9%以上削減、令和5年度末実績：一般管理費2億7,061万円、業務経費50億5,515万円＞
- 情報システムやデジタル技術等を活用した業務の電子化やペーパーレス化、業務フローの見直し・事務手続きの簡素化等により業務改善を推進
- 寄附金に関しては、寄附金募集に係る広報等を推進し、寄附金事業を適切に実施
- 奨学金事業における金融等の専門性や、留学生支援事業における諸外国の情報収集・分析等を行える多様な専門性を持つ人材の確保・育成
- 職員が制度の意義を感じ、モチベーションをより高められるよう、職員のキャリア形成を促進し、職場環境を整備

※下線は第4期中期目標・中期計画からの主な変更点、**下線太字**は定量的指標

# 1. 元奨学生とのつながりの維持・構築について（1）

## 現状と課題

### ○「元奨学生とのつながりの維持・構築」の位置づけ

- ・ JASSOの中期目標・中期計画において、JASSOの奨学金を活用して学業を修め、社会人として働きながら返還を終えた（返還中の方も含む）「元奨学生」の皆様とのつながりを維持・構築していくための取組が求められている。
- ・ 「元奨学生とのつながりの維持・構築」は、第5期中期目標・中期計画において、  
奨学金事業に対する正しい理解に基づく意義の理解や支持の拡大を図るための手段の一つ  
として位置付けられ、  
その方策について国と連携して検討し、具体的な取組を実施することとされている。

⇒ 具体的な取組を検討、実施していくことが課題。

### （参考）「元奨学生」について

第5期中期目標・中期計画における元奨学生……「給付や返還が完了した者」を指す。  
〔具体的な取組の実施にあたっては、返還中の者も含めて考えることとする。〕

#### ○給付奨学生の延べ人数

給付実績（累計）約68万人（平成29年度～令和5年度）

※現在受給中の学生等を含む。

#### ○貸与奨学生の延べ人数

貸与実績（累計）約1521万人（昭和18年度～令和5年度）

※現在貸与中の学生等や返還を完了した者等を含む。

# 1. 元奨学生とのつながりの維持・構築について（2）

## 具体的取組

### 【A】JASSOと元奨学生とのつながりに関する方策

#### 1. 元奨学生一般に対するJASSO奨学金の意義・評価に関する大規模意識調査の実施

（目的）元奨学生によるJASSO奨学金の意義づけや評価について、**客観的データ（エビデンス）**を得ることにより、**奨学金の意義付け・評価に関するJASSOと元奨学生との共通認識（つながり）**を形成する。

（概要）**元奨学生（給付・貸与）約100万人**を対象に調査し、結果を公表する。

奨学金による進学実現、貸与奨学金の負担等、奨学金の意義・評価について質問・回答（選択式、自由記述）

#### 2. 元奨学生の成功者等に対する事例調査（インタビュー調査）

（目的）奨学金を利用した成功者等の個々の事例を発信する。

### 【B】元奨学生**同士**のつながりに関する方策

#### 3. 従来の取組の総括

（目的）従来の取組（「育英友の会」「優秀学生顕彰」）について、意義や成果、限界等を整理し、レポートを作成する。

育英友の会・・・日本育英会の元奨学生の相互親睦等を目的とする組織（昭和31年創設）

優秀学生顕彰・・・寄附金を財源として、優れた業績を挙げた学生を顕彰し、奨励・支援（令和元年度廃止）

#### 4. 新たなネットワークづくり

（目的）元奨学生同士のつながりにより、奨学金の意義を発信する等、奨学金事業への応援を得る。

## 論点

#### 1. 調査の**第三者性・中立性**の確保について

調査結果の奨学生・元奨学生・**社会全体への効果的な発信**について

#### 2. インタビュー調査の対象となる**具体的人物の発掘**をどのように行っていくかについて

#### 3. 従来の取組と新たなネットワークづくりとでどのような**違い**を生み出せるかについて

#### 4. 元奨学生のネットワーク参加への**インセンティブ**の確保について（自発的参加、魅力あるコンテンツ発信等情報交流）

# 1. 元奨学生とのつながりの維持・構築について (3)

## 具体的取組が目指す効果

### ○「JASSOと元奨学生」、「元奨学生同士」のつながりの改善充実

- ・客観的データ（エビデンス）の積極的提供により、JASSO奨学金事業に対する一部の誤解や萎縮効果を払拭  
⇒ 第5期中期目標・中期計画が求める、奨学金事業に対する正しい理解に基づく意義の理解や支持の拡大に資する。
- ・JASSO奨学金事業のブランディング、組織・職員の活性化にも貢献  
⇒ 日本の人材育成に果たすJASSO奨学金事業の役割（高等教育機関への進学機会の確保拡大）についての社会の再認識・評価  
⇒ 機構職員のモチベーションの向上など、組織の活性化にもつながる。

## 今後の予定等

### ○令和6年度中の取組予定

- ・概算要求調査の企画・実施に向けての検討（国立教育政策研究所との連携を含む。）
- ・元奨学生ネットワーク関連方策の検討、具体化（インタビュー調査、情報収集、論点整理を含む。）
- ・年度末 今年度の進捗状況報告まとめ

### （参考）第5期中期目標・中期計画における進捗イメージ（令和7年度以降）

|       |                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------|
| 令和7年度 | 調査実施・分析、報告書作成、公表<br>ネットワーク形成方策の本格実施                             |
| 8年度   | 調査データの高校、大学、マスコミ等への普及、啓発<br>ネットワーク形成方策の一層の推進<br>関連方策の実施に関する中間評価 |
| 9年度   | 中間評価を踏まえた取組の継続、改善                                               |
| 10年度  | 第5期中期目標・中期計画における方策の実施とその成果について総括評価                              |



## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（1）

### 国の方針

○日本人学生の海外留学推進について



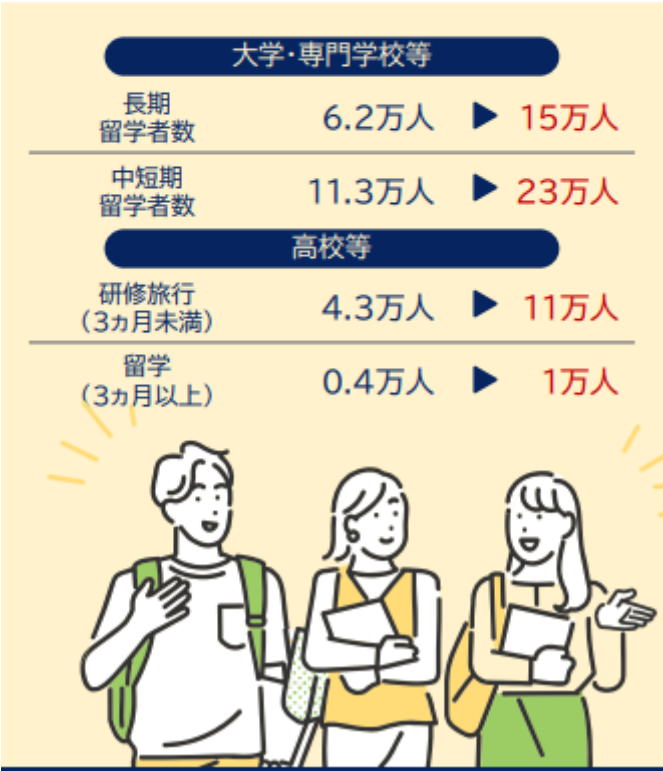
※「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（第二次提言）」  
（令和5年4月27日教育未来創造会議）パンフレットより抜粋

### 日本人学生の派遣

**50万人を派遣**

コロナ前22.2万人

非英語圏の仏・独と  
同等の水準へ



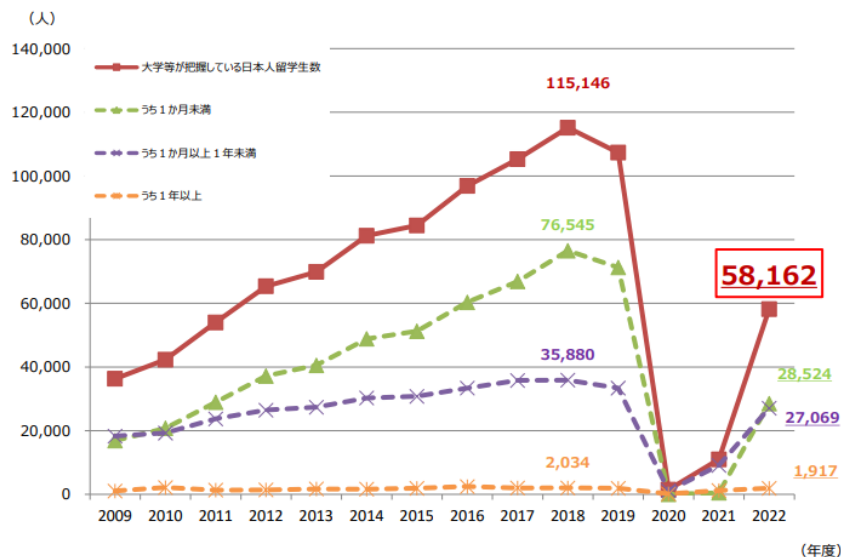
## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（2）

### 現状と課題

#### 【現状】

##### ○日本人留学生数等

大学等が把握している日本人学生の留学者数は、コロナ禍前の水準には戻っていないものの、2022年度は前年度より増加。

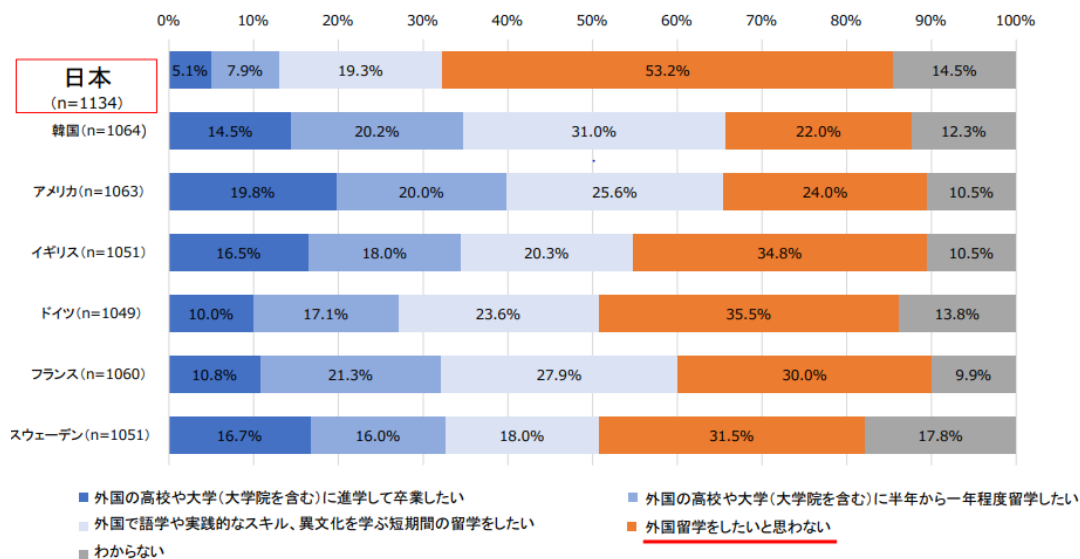


※JASSO「日本人学生留学状況調査」より

#### 【課題】

##### ○若者の外国留学への意識

諸外国においては、外国留学を希望する者が5割を超えるが、日本の若者は「外国留学をしたいと思わない」とする者が5割を超え、諸外国の中でも高い。



海外留学に行かない理由としては、「経済的な余裕がないから」が1位で、「語学力が不足しているため」、「留年・休学をしたくないから」が続く。

※内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）」より



## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（3）

### 具体的取組（1/2）

#### <JASSO第5期中期目標>

日本人留学生に対する支援：意欲と能力のある日本人生徒・学生の海外留学を促進し、グローバルに活躍する人材の育成に資するため、海外留学への機運醸成（留学希望者や国内外の関係機関等へ情報提供を行う等）や学資金支給事業に取り組む。

#### 1. 海外留学情報サイトやイベント実施による情報発信

⇒ホームページのアクセス件数やイベント実施等の回数を順調に伸ばしているものの、更なる充実が必要

##### ■ホームページ等による情報提供の充実

##### ①「海外留学情報サイト」の運営

| 区分     | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      |
|--------|------------|------------|------------|
| アクセス件数 | 1,040,316件 | 1,336,362件 | 1,574,551件 |

##### ②「海外留学奨学金検索システム」の運営

奨学金検索

給付・貸与

☐ 給付  
給付・返済不要  
奨学金・返済が必要

☐ 貸与

##### ③動画コンテンツ（Youtube）の配信



##### ④SNS（Facebook）の利用

| 区分   | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   |
|------|---------|---------|---------|
| ファン数 | 19,901件 | 22,684件 | 25,669件 |

##### ⑤「トビタテ！留学JAPAN」HPの運営

| 区分     | 令和3年度      | 令和4年度      | 令和5年度      |
|--------|------------|------------|------------|
| アクセス件数 | 2,915,936件 | 3,857,907件 | 4,647,533件 |

##### ⑥「トビタテ！留学JAPAN」SNSによる発信

| 区分   |                                   | 令和3年度               | 令和4年度               | 令和5年度               |
|------|-----------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| ファン数 | X<br>※旧Twitter<br>トビタテ<br>（#せかい部） | 19,603件<br>（6,267件） | 21,707件<br>（6,443件） | 23,256件<br>（6,706件） |
|      | Youtube<br>※令和3年末<br>開始           | － 件                 | 3,655件              | 6,901件              |
|      | Facebook                          | 34,619件             | 34,650件             | 34,857件             |
|      | Instagram<br>トビタテ<br>（#せかい部）      | 5,110件<br>（4,941件）  | 7,819件<br>（5,621件）  | 12,048件<br>（6,800件） |

## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（4）

### 具体的取組（2/2）

#### ■ 海外留学イベントの実施及び他機関実施イベントへの協力

##### ① 海外留学フェア・海外留学説明会等

| 区分            | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 海外留学フェア       | 1回    | 1回    | 1回    |
| 海外留学説明会       | 12回   | 12回   | 12回   |
| 他機関実施イベントへの協力 | 14回   | 20回   | 41回   |
| 全体            | 27回   | 33回   | 54回   |

##### ② 「トビタテ！留学JAPAN」イベント

| 区分                           | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|------------------------------|-------|-------|-------|
| 海外関心喚起イベント<br>（中高生向け＃せかい部主催） | 5回    | 5回    | 3回    |
| 留学啓発イベント・セミナー                | 26回   | 8回    | 3回    |
| 中高への出張授業                     | 1回    | 1回    | 25回   |
| 他機関実施イベントへの協力                | 1回    | 9回    | 30回   |
| 全体                           | 33回   | 23回   | 61回   |

#### 2. 学資金支給

（令和6年度）

|          | 国による支援                                        |                               | 民間資金を活用した支援                                     |
|----------|-----------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------------------|
| 名称       | 海外留学支援制度                                      |                               | トビタテ！留学JAPAN<br>新・日本代表プログラム                     |
|          | 協定派遣型                                         | 学位取得型                         |                                                 |
| 予算       | 54.9億円                                        | 16.8億円                        | 9.7億円                                           |
| 対象者      | 日本の大学等に在籍しながら、大学間交流協定等に基づき諸外国の大学等に留学（1年以内）する者 | 「学士」、「修士」又は「博士」の学位取得を目指し留学する者 | 日本の高校・大学等に在籍しながら、学生等個人が立案・作成した留学計画に基づき諸外国へ留学する者 |
| 支援期間     | 1年以内                                          | 過程の修業年限                       | 1年以内                                            |
| 支援見込人数※1 | 21,288名/年                                     | 学部265名/年※2<br>大学院398名/年※2     | 高校850名/年<br>大学250名/年                            |
| 支援内容     | 奨学金6～10万円/月<br>渡航支援金13又は16万円                  | 奨学金12.4～35.6万円/月<br>渡航支援金16万円 | 奨学金6～16万円/月<br>授業料30万円<br>留学準備金21又は35万円         |

※1 海外留学支援制度は予算人数、トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラムは募集人数。

※2 学年進行による継続支援分を含む。

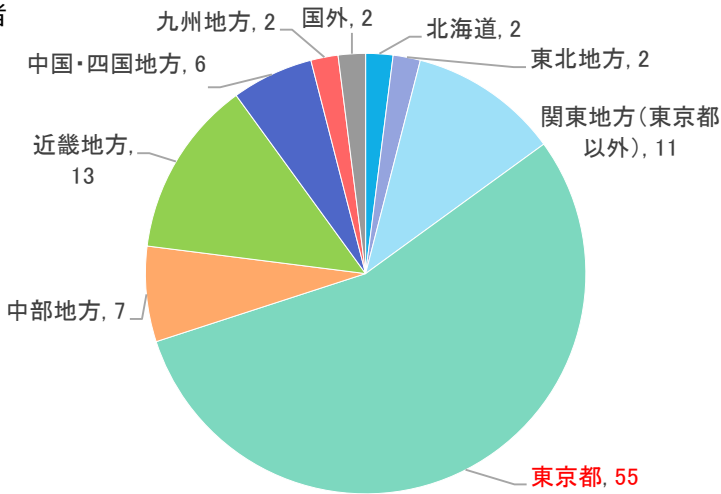
## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（5）

### 論点

- 1. 留学に関する情報を広く学生・生徒に伝えるための発信方法や時期、内容等について（情報提供の早期化、地方での留学機運醸成をどのようにしたらよいか等）
- 2. 多くの学生が留学を経験することによる、国や個人にとっての便益を踏まえた留学促進の在り方について（留学したことによる社会的評価をどのように向上させればよいか等）
- 3. 留学に消極的な現状への見解について（物価高・円安の問題、就職活動の早期化、アカデミックカレンダーとの兼ね合い等）
- 4. 社会や企業において留学経験者が活躍するためには、どのような経験を積んでもらいたいかにについて

（参考）2024年度海外留学支援制度（学部学位取得型）出身高校所在地別採用者

| 都道府県 | 採用者数 | 都道府県 | 採用者数 | 都道府県 | 採用者数 | 都道府県 | 採用者数 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 北海道  | 2    | 東京都  | 55   | 愛知県  | 2    | 山口県  | 1    |
| 岩手県  | 1    | 神奈川県 | 3    | 滋賀県  | 2    | 徳島県  | 1    |
| 宮城県  | 1    | 新潟県  | 1    | 京都府  | 2    | 高知県  | 1    |
| 茨城県  | 2    | 石川県  | 1    | 大阪府  | 4    | 福岡県  | 2    |
| 群馬県  | 1    | 福井県  | 1    | 兵庫県  | 4    | 国外   | 2    |
| 埼玉県  | 1    | 長野県  | 1    | 奈良県  | 1    | 総計   | 100  |
| 千葉県  | 4    | 静岡県  | 1    | 広島県  | 3    |      |      |



## 2. 海外留学に係る機運の醸成について（6）

### 参考

### Global×Innovation人材育成フォーラム 中間まとめ（概要）

～未来を創造し担う若者たちが世界に羽ばたける留学環境とチャンス～（令和6年10月1日）

この国の成長と共生社会の実現を志を持ってリードする人材の育成が急務。政府をはじめ、教育界、産業界等が一体となって留学生モビリティ促進に全力を上げねばならない。本フォーラムの決意の具体的内容を以下に記す。（前文）

#### （1）【若者の多様な成長を支える留学機会の提供】（本文1）

- 中学校や高等学校等の早い段階から、留学や海外研修、対面やオンラインでの国際交流等の多様な国際経験の機会に誰もがアクセスできるよう地方公共団体・学校関係者に求める。
- 大学生・大学院生等を後押しするため、大学等は、日本人学生と外国人留学生が共修する機会や科目の充実に加え、一定の期間海外において研鑽を積む機会の必修化を目指すなど、留学の有無に関わらず国内にしながら国際経験が積める体制の構築を進めるべき。

#### （2）【経済的支援】（本文2～4）

- 【学部学生や高校生等】多様な成長への第一段階として、できる限り多くの学生・生徒に留学に挑める環境とサポートが必要。
  - ・高校生等…裾野を広げ、地方・地域に関わらず海外へ渡航できるよう、経済的支援の抜本的な充実が求められる。
  - ・学部学生等…一定の家計基準を設けつつも、協定派遣や学位取得目的の海外留学に関する給付型奨学金の大幅拡充が必要。
- 【大学院生】世界トップレベルの学生・研究者と切磋琢磨し、人的ネットワークの構築に加え「総合知」にも繋がるような学びを支援。
  - ・1年以上の期間にわたるものや学位取得を目的とするもの等、本格的な留学に対して給付型奨学金を特に重点的に支給すべき。
  - ・博士後期課程については、留学先の支援の積極的な活用や共同研究の枠組みに参加することによる研究費の獲得・活用等も期待。
- 昨今のかつてない水準の物価高騰・為替変動により留学を断念することのないよう、国費による奨学金は単価の見直しと充実必須。
- 「トビタテ！留学JAPAN」をはじめとする民間企業・団体等からの支援は、引き続き継続・拡充されることが望ましい。政府は税制等企業が支援しやすい仕組みの検討、既存制度の一層の活用、恒常的・継続的な留学支援ができるような仕組みの検討を進めるべき。

#### （3）【体制・環境整備】（本文5～9）

- 初等中等教育段階の国際交流について、政府や地方公共団体は学校の負担軽減に努め、全国で取り組めるよう政府が集中的に支援すべき。
- 大学等において全学生が留学する前提の教育を展開し、留年や休学することなく留学できる環境を実現することが急務。学内全体を通じた環境を整備し、国内にしながら国際経験が積める体制を構築する大学等には、政府から明確なインセンティブを付与することが望ましい。
- 国際的な交渉等を継続的に担う能力の高い専門職員の育成・確保を進める。留学固有の支援提供に適正な対価を求めることは大学経営上合理的であり、大学等は、外国人留学生の授業料の増額や手数料の徴収等、持続的・安定的な学内国際体制の自律的構築に努めるべき。
- 派遣と受入れを両輪として留学生モビリティ向上を推進。外国人留学生コミュニティと日本人学生コミュニティとの交流が進むよう留意。
- 就職活動の早期化・長期化が留学を躊躇する一要因として指摘されている現状について、改善に向けて取り組んでいくことが必要。

#### （4）【留学の機運醸成】（本文10～11）

- 留学経験が評価されるという認知を社会全体で向上。特に産業界に、留学等の成果を積極的に評価するメッセージを強く打ち出すよう期待。
- 留学の実情や海外留学支援制度等を政府が発信し、教師や保護者等の認知度を高めることでこうした認識を共有することが不可欠。
- 早期から世界の多様性等を体感できる機会として、外国人留学生・外国人教員等と接する機会、姉妹都市との交流機会の活用等を推奨。



### 3. 学生生活をめぐる諸課題について（1）

#### 事業概要

○国の方針 学生生活支援において、政策上特に重要性の高いもの等について、大学等の取組を促進

障害のある学生等に対する合理的配慮の提供が法的義務となる状況の中、大学等における障害学生支援の取組の促進を図る  
産学で合意された新たな類型に基づくインターンシップをはじめとした学生のキャリア形成支援・就職支援に係る取組の促進を図る 等

○事業概要 学生を取巻く諸課題の解決に向けた各大学等の取組を支援することを目的として、  
各種調査、セミナー・ワークショップ・研修会等を実施

#### 学生生活、学生生活支援に関する 情報の収集・分析・提供

学生生活調査  
高等専門学校生活調査  
専門学校生活調査

大学等における  
学生支援の取組状況に関する調査

学生生活に係る喫緊の課題に  
関するセミナー

#### 障害のある学生等に対する支援

大学、短期大学及び高等専門学校における  
障害のある学生の修学支援に関する実態調査

障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー  
障害学生支援に関する専門テーマ別セミナー

障害学生支援実務者育成研修会  
(基礎プログラム・応用プログラム)

心の問題と成長支援ワークショップ

#### キャリア教育・就職支援

全国キャリア教育・就職ガイダンス

インターンシップ専門人材セミナー  
～基礎編～

キャリア教育・就職支援ワークショップ

インターンシップ等  
キャリア教育に関する情報の提供

# 3. 学生生活をめぐる諸課題について（2）

## 現状と課題（1/3）

大学等の取組を促進するに当たり、現状を踏まえ、大学等の必要としている情報等を提供する必要がある。

### 1. 学生生活、学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供

#### ○「コロナ禍」前後での学生のメンタルヘルスに関する状況の変化について

##### 【現状】

コロナ禍前（H30）と比較して、カウンセリングを利用したことがある学生の割合が上昇しているが、その理由等の詳細については、学生の個人情報保護等との兼ね合いから調査が困難であることが課題。

##### <JASSOの取組>

- ・学生生活調査（H26～）
- ・心の問題と成長支援ワークショップ
- ・喫緊の課題に関するセミナー

「コロナ禍における学生のメンタルヘルスと支援」（R3）

#### ○LGBTQ等、性に関する悩みを抱える学生への対応について

##### 【現状】

LGBTQ等、性に関する悩みを抱える学生への対応に課題意識を持つ大学等が増加する傾向にある。「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が令和5年6月に成立したが、政府の基本計画が未策定のため、各大学等における理解の増進に向けてどのような取組を促進すべきなのかが不明であることが課題。

##### <JASSOの取組>

- ・大学等における学生支援取組状況に関する調査の実施（R1～）
- ・喫緊の課題に関するセミナー

「性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性

ー大学等における理解増進と支援の充実に向けてー」（R5）

「大学の学生支援体制への満足度について」において、「学習・生活面でのカウンセリングを利用したことがある」と回答した学生の割合（単位：％）

| 年度     | 大学学部<br>(昼間部) | 短期大学<br>(昼間部) | 修士課程 | 博士課程 | 専門職<br>学位課程 |
|--------|---------------|---------------|------|------|-------------|
| 平成30年度 | 40.1          | 52.8          | 37.4 | 29.7 | 43.4        |
| 令和2年度  | 37.0          | 50.0          | 36.0 | 29.7 | 42.5        |
| 令和4年度  | 51.5          | 69.8          | 47.6 | 36.8 | 48.7        |

※JASSO「平成30年度学生生活調査」、「令和2年度学生生活調査」、「令和4年度学生生活調査」より

「学生生活支援に関する課題」において、「教職員や学生の性的指向・性自認の多様な在り方の理解に関すること」を回答した大学等の割合（単位：％）

| 年度    | 大学全体 |      |      |      | 短期大学<br>全体 | 高等専門<br>学校全体 |
|-------|------|------|------|------|------------|--------------|
|       |      | 国立   | 公立   | 私立   |            |              |
| 令和元年度 | 24.4 | 34.9 | 20.7 | 23.5 | 14.3       | 15.8         |
| 令和3年度 | 24.6 | 37.2 | 18.6 | 23.7 | 16.6       | 29.8         |

※JASSO「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））」より



# 3. 学生生活をめぐる諸課題について（3）

## 現状と課題（2/3）

### 2. 障害のある学生等への支援に関するもの

#### ○障害のある学生の就職支援について

##### 【現状】

障害学生の就職率が、障害学生を含めた一般学生の就職率より低く、特に、精神障害、発達障害の学生の就職率が低い。大学等における障害のある学生の就職支援に関しては、各種の研修会、セミナー等が必要な情報提供を行ったり、演習等で好事例を共有したりする等して、大学等の取組を支援しているが、精神障害、発達障害を有する者の就職や仕事の継続が困難であることは社会一般的な現象でもあり、効果的な対策が難しいことが課題。

##### <JASSOの取組>

- ・全国キャリア教育・就職ガイダンス
  - 「障害のある学生のキャリア教育・就職支援」（講演、セッション）
  - 「キャリア教育・就職支援の取組」（事例紹介）
- ・障害学生支援に関する専門テーマ別セミナー
  - 「卒後を見据えた障害学生支援 ～就職支援企画の実践報告から～」(R5)
  - 「卒後を見据えた障害学生支援 ～卒業生の語りから～」(R4)
  - 「これからの修学支援体制と支援制度」(R4)
- ・喫緊の課題に関するセミナー
  - 「発達障害のある学生の支援：それぞれの未来に開かれた学生生活のためにできること」(R4)

大学等卒業者の就職率 (令和5年5月1日現在)

|         | 就職希望者数<br>(単位：人) | 就職者数<br>(単位：人) | 就職率<br>(単位：%) |
|---------|------------------|----------------|---------------|
| 視覚障害    | 93               | 83             | 89.2          |
| 聴覚・言語障害 | 264              | 230            | 87.1          |
| 肢体不自由   | 239              | 201            | 84.1          |
| 病弱・虚弱   | 1,631            | 1,485          | 91.0          |
| 重複      | 51               | 42             | 82.4          |
| 発達障害    | 1,145            | 857            | <b>74.8</b>   |
| 精神障害    | 1,713            | 1,357          | <b>79.2</b>   |
| その他の障害  | 507              | 447            | 88.2          |
| 計       | 5,643            | 4,702          | <b>83.3</b>   |

※JASSO「令和5年度（2023年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」より  
(令和5年4月1日現在)

| 区分             | 就職率<br>(単位：%) |
|----------------|---------------|
| 大学・短期大学・高等専門学校 | <b>97.5</b>   |

※文部科学省「令和4年度大学等卒業者の就職状況調査」より

# 3. 学生生活をめぐる諸課題について（4）

## 現状と課題（3/3）

### 3. キャリア教育・就職支援に関するもの

#### ○新たな類型に基づくインターンシップの推進と就職活動の早期化への影響について

##### 【現状】

「三省合意」が改正され、新たな類型に基づくインターンシップが推進されているが、当該インターンシップで取得した学生情報が一定要件のもと採用選考に使用可能となったことで、実質的な就職活動の早期化につながっているのではないかと懸念の声が聞かれる。熾烈化する人材獲得競争の中で、インターンシップ（第3類型、第4類型）の活用について、企業側と大学側が、それぞれどの様に捉えているのかを把握したい。

##### <JASSOの取組>

- ・全国キャリア教育・就職ガイダンス
- ・キャリア教育・就職支援ワークショップ

##### 「全国キャリア教育・就職ガイダンス」（R6）の事前アンケートから見える大学等担当者の声

- ・「採用活動の早期化に伴い、学業もままならない状況で・・・」
- ・「大学側としては就活の早期化を大変懸念しており・・・」
- ・「インターンシップ参加者を対象とした早期選考の実施状況・・・」等

##### 「キャリア教育・就職支援ワークショップ」（R6）の事前アンケートから見える大学等担当者の声

- ・「採用選考活動の早期化・長期化・・・」
- ・「企業・学生ともに就職活動の時期や早期化、進路の多様化している・・・」
- ・「就職活動の早期化により、低学年のキャリア教育就職支援が必要だと・・・」等

## 論点

1. 学生生活、学生生活支援に関する情報で、大学等が必要としている情報について（例えば先進的な取組）
2. 障害のある学生が希望する職業に就き、社会で活躍できるように大学等で取り組むべきことについて
3. 新たな類型に基づくインターンシップに起因する就職活動の早期化に関し、大学等で把握している状況について